



「こうやります」新部会長

発足2年目のゲンコミは地域を超えた大きなテーマであるデジタル、県営健康団地 CR(コミュニティルーム)に取り組むべく2つの新部会を設けた。佐藤祐一(緑が丘)、小笠原陶子(百合が丘2)の両部会長に意気込みを聞いた。



地域のデジタル化こそ

今の社会生活にはデジタル・情報通信技術は欠かせません。昔、鉄腕アトムの漫画に描かれた腕時計での会話が現実のものとなり、買い物も今日注文すれば、明日届きます。旅先を選べばそこへの行き方を瞬時に教えてくれます。時刻表を使って、乗り換えを調べる時間と手間が不要になりました。こうした恩恵を得るにはスマホをうまく使いこなすことが条件になります。デ

ジタル化の恩恵がもっと広がるように、との思いから「スマホ教室」を開催しています。

また、ゲンコミイベント申込みの簡易化、メンバー間の情報共有の整備を行いました。さらにはデジタル化を通じて、自治会など地域の皆様の活動の負担を減らすお手伝いできればとも考えています。こうした活動に興味がある方は、ぜひご連絡ください。時代の要請ともいえる「地域のデジタル化」を一緒に進めましょう。



まっさらな支え合いの場

神奈川県は多様な交流、健康・コミュニティづくりを目指す健康団地計画を推進中です。二宮町の高齢化比率は30%を超え、一色小学校区では住民の半数近くが高齢者となっています。

私は、町議会議員、百合が丘地区社協役員等の活動を通じ、地域の人々が楽しく交流できる場の企画運営に力を入れて来ました。そのノウハウと人脈を活かし、新しく誕生するコミュニティルームや広場の活用を推進していきます。

今、日本の男性の3割は未婚。離婚率も高く、ひとり親家庭が増えています。ひと昔前は、困ったときには家族が支えましたが、今はそれが希薄となり、地域での支え合いが期待されています。「困ったときはお互い様」「遠くの親せきより近くの他人」とは、きわめて今日的な意味を持つことわざです。しがらみのない、真っ新なスペースでは、まずは日常的なふれあいや気軽な居場所づくりから始め、やがては難しい相談も自然にできる場になっていくと考えています。

住民の皆様とワイワイガヤガヤやりながら、新しい交流、活性化スペースを盛り上げて行きます。